

折に触れ 四字熟語

NO. 53 『千秋万古』 せんしゅう ばんこ

< 意味 > 歳月の長いこと。永遠。

< 出典 > 劉希夷「公子行」

公子行

願作貞松千歳古 願はくは 貞松と^{ていしょう}な^なって 千歳に^{せんざい}ふ^ふりなん
誰論芳槿一朝新 誰か論ぜん 芳槿 一朝の^{ほうきん}新たなるを
百年同謝西山日 百年 同に^{とも}し^{しや}せん 西山^{せいざん}の日
千秋萬古北邙塵 千秋 万^{ばんこ}古、北邙^{ほくぼう}の塵

通 釈： どうかときわの松のように、いつまでも変わらない愛情をお誓いたしとう存じます
あのむくげの、ただひと朝きりの、あだ花など問題になりませんもの（以上、遊女が公子
に答える言葉）

（このように契り合ったものの）百年の後には、西山に没する日と同じように、死んでしまえばそれまで

未来永劫に北邙^{ほくぼう}山上の塵と化してしまうのだ（この理をさとらず、千年の不変の愛を誓うとは哀れむべきである）（以上、盛者必滅のことわりを説いて、人生のはかないことをさす）

語 釈： 「千秋」は千年、長い年月の形容。「秋」はここでは一年のこと。「万古」は遠い過去のことではなく、ここでは後世までの長い時間、永遠のこと。「貞松」はときわの緑を保つ松のこと。「芳槿」はむくげ。朝、花を開き夕べにしばむ。美しいがはかないもののたとえ。「謝」は去る。死ぬ。「北邙」は洛陽の北にある山の名。古来、墓地として有名。

一 言： 秋シリーズその3

長い詩なので最後の四行だけ掲載しました。季節の「秋」ではありませんが取り上げてみました。「万古千秋」とも言います。

参考文献： 角川書店「中国名詩鑑賞辞典」 三省堂「四字熟語辞典」